

親が子を上手に伸ばす 5つの秘訣



目標達成主義の個別指導専門塾
個別進学セミナー

はじめに

わが子の成績や能力を伸ばしてやる良い方法はあるのだろうか？この問いに対して、特効薬的な明確な答えは、ないといえるでしょう。

ですが、お子さんとの接し方や言葉のかけ方などを、日々の生活の中で意識しつつ改善することで、お子さんに大きな変化が見られることは間違いありません。

そのあたりのことを、親御さんと一緒に考えてゆきたいと思います。

お子さんとの接し方あれこれ	・・・・・・・・	3 ~ 5
お子さんとの上手な接し方	・・・・・・・・	6 ~ 10
家での勉強のし方・させ方	・・・・・・・・	11・12
お子さんのやる気がでる接し方	・・・・・・・・	13 ~ 15
学習がはかどる家庭環境とは？	・・・・・・・・	16 ~ 18

お子さんとの接し方あれこれ



私が塾講師を始めて、かれこれ今年で21年目になります。学生時代は集団指導塾、個別指導塾、家庭教師として。卒業後は大手個別指導塾の教室長を7年ほど務めました。その間に教えた生徒は1000人を超えます。その後、自塾を開設してからは教えた生徒が300人ほどです。思えば、本当に様々なお子さんや親御さんとお付き合いさせていただきました。広く、深く、さまざまな事例を見てきたことになります。その経験から、親御さんを分類させていただくと、大きく次の4つに分かれるようです。

- タイプ1** 教育熱心で、子供に小さいころから勉強させ、高学歴を狙わせる。
- タイプ2** 教育熱心だが、「勉強、勉強」とは言わず、わりあい本人まかせ。
- タイプ3** 教育に関心はあるが、「小さいうちは体をしっかり鍛え、本格的な勉強は、中学になってからでよい」という方針。
- タイプ4** 放任主義だが、成績には一喜一憂し、場当たりに子供をしかる。

中には、これにうまく当てはまらない方もおられると思いますが、話をわかりやすくする効果が大きいですから、この分類で話を進めますね。

タイプ1 教育熱心で、子供に小さいころから勉強させ、高学歴を狙わせる。

一見したところ理想的に思える ですが、実は極端に違う2種類の結果が出ています。

のタイプで上手くゆく場合は、お子さんに「 中学」「 高校」「 大学」という「目標」だけではなく、勉強の「目的」と「将来の展望」をイメージさせながら、うまく親子のコミュニケーションがとれた場合だと思われます。

失敗するのは、勉強そのものが目的になってしまい、自分が何のために勉強をしているのか、わからなくなってしまう場合です。

万が一、受験に失敗すれば、その後は親のコントロールはほとんど利かなくなってしまうます。中には暴走するケースもありました。

タイプ2 教育熱心だが、「勉強、勉強」とは言わず、わりあい本人まかせ。

次は のタイプですが、このタイプの親御さんのお子さんが、急激に伸びることが非常に多いのです。 のタイプでも、うまく実力をつけて伸びるお子さんはかなりいるのですが、本人の自主性を尊重しながらも放任せず、うまく方向づけして子供のお尻を押してやる のタイプが、よく伸びる子供を育てる土壌としては、一番良いようです。

このケースの例をひとつ挙げます。以前の生徒で、非常によくでき、努力もしっかりする子がいました。やがて彼は難関私立中学に合格し、高校を経て、その後は医学部に進学しました。実はその子の2つ年下の弟がいたのですが、同じ雰囲気を感じました。性格は全くといっていいほど違うのですが、勉強に対するスタンスは、ほぼ同じでした。その子も兄と同じ道を歩み、今は医学部で学んでいます。親御さんとは、折に触れ、電話や懇談で何度も話をしましたが、親御さん(ご両親とも)のお話からも、彼らの育った環境が、 のタイプであることがわかりました。

タイプ3 教育に関心はあるが、「小さいうちは体をしっかり鍛え、本格的な勉強は、中学になってからでよい」という方針。

のタイプは、と同様、極端な結果が出ます。小学校の基礎学力がしっかり身につけている場合は、中学からの勉強もスムーズに行うことができ、うまくいくことが多い。逆に小学校の基礎学力が不足していると、かなり危ない状態になっています。そこから成績を上げていくには、本人もさることながら、親も意識改革して、相当な「工夫」と努力をしなければなりません。

このタイプの親御さんの多くは、小学校のときは中ぐらいたとめていたわが子の成績が、中学校に入り、中以下になってゆく現実を見てあせります。そして、「成績が悪いから勉強しなさい」と、お子さんの顔を見ると、口癖のように言ってしまうようになります。それが実は、事態をさらに悪化させることになるのです。

タイプ4 放任主義だが、成績には一喜一憂し、場当たりの子供をしかる。

4のタイプ親御さんの場合、お子さんは、親の都合でしかられたり勉強させられたりしますから、お子さんにとっては大変迷惑なことになります。そして、お子さんは混乱し、そのうち親御さんの言うことは聞かなくなってしまう。

1 ~ 3 は、それぞれのお家のお考えだと思いますので、私はよし悪しをいえる立場にはありませんが、4 だけは良くありません。このようなことは決してしないでください。

お子さんとの上手な接し方



お子さんは（小学生のお子さんは特に）、学校や塾で過ごしている時間より、家庭の中で過ごしている時間のほうが、ずっと長いのです。ですから、親御さんのお子さんへの接し方は、驚くほど将来に影響を与えます。

「お子さんに、どのように接していくのが良いか」ですが、はっきり言えることが2つあります。

1. 「お子さんを、他の何ものかと比べて、しかったりほめたりしない」

これは非常に多くのお子さんを観察し、多くの親御さんとお話してきてわかったことですが、とても大切なことです。

懇談などで、お母さんに、次のような問いかけをすることがあります。



「ご出産された時、わが子にどんなことを願っていましたか？」

「将来、わが子がどんな風に育ってほしいと願いましたか？」

「健康で丈夫な子に育ってほしい。」 「優しく、思いやりのある子に育ってほしい。」
ほとんどは、こうです。そして、「勉強ができる子に育ってほしい」というのは聞いたことがありません。

それがお子さんが大きくなるにつれて、親はどんどん欲が出てきてしまうのですね。もっとピアノが上手になってほしい。もっとサッカーが上手くなってほしい。もっと勉強ができるようになってほしい……。

いつの間にか、意識しないで「何か」と比べてしまって、「もっと」を要求してしまうのです。そうすると親御さんは、わが子の欠点やできていないところばかりが目につくようになります。そして、そこを「直す」べく、注意するのです。できたこと・よかったところには、なかなか目が向かず、欠点を直そうと努力してしまうのです。そして、お子さんは「自分は欠点だらけの人間だ」と錯覚してしまうようになります。まわりがその子を励まし、いろんなことにチャレンジさせようとしても、口から出てくる言葉は、「どうせできないよ」です。そう思い込んでしまっているのです。

塾に通い始めの子で、こういう子が時々います。そんな子を見ると、さぞ今までいろいろな大人から欠点ばかりを指摘されてきたんだろうなあと思い、胸が痛みます。

人間は失敗をする生き物です。そして、お子さんは、その失敗からいろいろなことを学び取って成長してゆくのです。失敗とまでいかななくても、うまくいかなかったときに親御さんが取る態度次第で、お子さんの進んでゆく方向は、良い方向にも悪い方向にも変わります。



うまくいかなかったときに、親がそれを咎めてしまうと、お子さんは失敗を恐れ、萎縮し、失敗しない程度の努力しかしなくなってしまいます。けれど、失敗したことを親御さんが素直に受け入れてあげ、そこから「一緒に」考え、教訓を得られるように導いてゆくことができれば、お子さんには、「失敗してもいいんだな。」「この次は、もっとがんばって、うまくやろう。」というふうな、チャレンジ精神が備わってきます。

失敗は悪ではありません。失敗は経験です。失敗は悪いことだと捉えること自体が間違いなのです。

以前テレビで、ノーベル化学賞をとられた野依良治教授の話聞き、感銘したことがあります。教授の話は、次のようなものでした。

「今の私を作ったのはすべて母でした。母は、私が幼少のころから、いつもほめてくれました。どんなに失敗したときもです。私が何かしようとして、どんなにうまくいかなかった

ときでも、母はいつも肯定的に私を見てくれていました。『ここまでできたのだからよかったじゃない。次にはもっといい結果が出せますよ』と。私は失敗を恐れることがなくなりました。失敗をしても、それを改善し、努力して成功に近づけることが大事なんだと、私は母に教えられたのです。私の研究で、幾度も失敗を乗り越え、今回のこの名誉ある賞をいただけたのも、すべて母から受けた教訓のおかげだと思っています。」

10のうち9がよくないと思われるときでも、1の長所や成果を認めて、ほめてあげることが、お子さんの将来にどれほど大切なことかを、わかっていただけたらと思います。

学校の成績でもそうですね。やれ上がった、下がったとすぐに叱ってしまう前に、プラス面をまず見てあげてはいかがでしょうか。お子さんのヤル気を引き出すのに、有効に働きます。

でも、実際には、頭でわかってはいても、状況によっては、褒め言葉すら出てこないときもあるもの。けれどそんなときでも、「叱る時は、褒めるチャンス」という意識を常に持って、お子さんに接していただければと思います。

2.「お子さんに、その時々で当たらない」

日曜日の昼間に電車に乗るのは、ちょっと気が重いです。次のような親子連れに、よく出くわすからです。子どもが何か気に入らないことをしたんでしょうね。若いお母さんが子どもをしかる。叩く場合もあるし、語気の荒い言葉を投げかけることもある。お子さんは当然ぐずる、泣き出す。さらにお母さんがヒステリックになって、火に油をそそぐ。場合によっては、泣いている子どもを無視する。お母さんは機嫌の悪いふくれっ面。こんなとき、私は別の車両に避難します<苦笑>。

ちょっと、ひどい例ですが、こういうのは、子どもを叱っているのではないんですね。ただ、当たっているんです。

お母さんの機嫌が、もともと悪かったのか、お子さんの態度にムカついた(この言葉も良くないですね)のかは分かりませんが、とにかく、叱っているのではなく、当たっている。その証拠に、泣き出した子どもに対し、さらに当たる。もしくは、関わりを避けようと、無視する。

神戸の王子動物園の名飼育係だった亀井一成さんが、こんなことを言われています。

「子どもが泣いとるのに、うるさがったり無視したりするのは人間ぐらいのもんや。トラやライオンでもかみついたりせえへん。気性の荒いタイワンザルでも、飛んでいって子どもを抱きかかえんねん。ほかの大人も『なんや、なんや』と寄ってくる。」

お子さんをしかるのは、本当に難しいですね。私も常に悩んでいます。いろんな本を読んだり、塾で生徒に接しながら考えています。そんな中で、最近出会った話を、ひとつ紹介したいと思います。

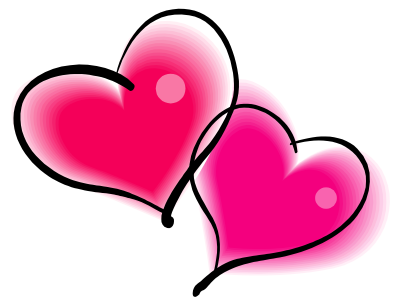
先ほどの亀井さんには、忘れられない光景があるそうです。マントヒヒのお母さんが、自分のそばを離れたわが子をたたき、かみついていた。野生では、ひとりになった子は、空からワシに狙われる。だからお母さんは「離れたらあかん」ときつくしかった。ここからは、亀井さんの言葉ですが、

「そのあとや。しかられた意味を子がわかったら、母さんは子を胸にぎゅうっと抱きしめて、『ううううっ』て1分も泣いてた。たたいてすまんかったと泣きながら抱きしめたんや。叱りっぱなしではあかんのやな。」

さらに私の知り合いの方の小学生のころの体験です。この方のお父さんはお豆腐屋さんをやっていました。日曜に外出したときに、彼がよっぽどのことをしたんでしょうね。家に帰ってくるなり、店の真ん中で、よそゆきの服を着たまま、頭から水をぶっかけられました。大きなバケツにたっぷり一杯。

お父様は泣いていたそうです。泣きながらしかってくれたそうです。水をつめたさや、しかられた内容は忘れてしまったそうですが、そのときの情景と、「親父を悲しませるようなことはしたらあかんのや」と、子ども心に誓ったことは、今でも覚えているそうです。

そのときのお父様が、単に機嫌が悪くて、当たってきただけなら、そんなこと覚えていなかったことでしょう。お父様が全身全霊を込めて、何かを教えようとしてくれたからこそ、大切な思い出として、心の中に残っているのです。



家での勉強のし方・させ方



「勉強しなさい」と言うだけで、お子さんは素直に「はい」とやり出すでしょうか？ そんなにうまくいくなら誰も苦労はしませんね。こちらが「やらせよう」という意識が強いほど、子供はやらなくなります。

親御さんの中で「いくら親が勉強しろと言っても、全然勉強しないんです。先生、うちの子に何とか言ってやってください。お願いします。」とおっしゃる方が多い一方で、先ほどのタイプの家庭（教育熱心だが、「勉強、勉強」とは言わず、わりあい本人まかせ）のように、親がどうこう言う前に、子供がやるべきときにやるべきことをしている例もあるのです。

ちょっと、塾での指導のことは、棚の上にあげておいて、書きます<汗>。そうでないと、これから書くことは書けません。ご容赦ください。

塾で生徒に、家でもしっかり勉強するように、いろんな手を使って仕向けても、効果のある場合とない場合があります。効果のない場合の多くで、生徒はこういうことを漏らします。「やろうと思ってるのに、勉強しろと言われるから、ヤル気がなくなる。」

そこで、その子に、「お母さんは、勉強、勉強ってうるさい？」と聞くと、「しょっちゅう言われる。」と答えます。「家で勉強しようという気はあるの？」と聞くと、たいていの子は「あるけど・・・」と答えます。

お子さんは、本当は家でも勉強しようという気はあるのですが、親御さんがそれに対して、うまくその方向に仕向けられていないということです。問題はいかに自分からやろうというふうに仕向けるかですが、ただ、「勉強しなさい」だけでは、お子さんも親御さんをうっとうしく思ってしまいます。

ここで、実績のある有効な手法を、紹介しますので、ぜひ実践してみてください。

1. 具体的に何をやればよいのかを考えさせる。

たとえば、お子さんが「英語をしようかな」と答えれば、「英語のどの単元をしたいの?」と聞き返してみる。そうすれば、たとえ「わからない」と答えたとしても、お子さんなりにどこをすればいいのか考えようとしています。

ここで大事なことは、前回のテストで全然できていなかったところの復習などをさせたいところですが、それは後に回して、まずお子さんが手をつけやすい、得意なところからはじめられるように仕向けることです。お子さんにとっては、思い出したくもないイヤな部分からやりだすのは、かなり抵抗があるはずですから。

2. 勉強が終わった後に掛ける言葉

「ちゃんと勉強した?」とか「ゲームしてたんじゃない?」という風に言ってしまいがちです。たとえそうであったとしても、「どんなことがわかった?」と、プラス面を聞いてみましょう。

はじめはうまく答えられなくても、やがて自分の言葉で答えてくれるようになります。そして、ココがわかったから、次は・・・とヤル気と欲を出すようになってきます。

勉強の中身について具体性を持たせること、そして、その成果についても肯定的に見てあげることが大切です。押し付けがましくさせるのではなく、自分からやろうという気になるよう、うまく乗せてあげることも大切です。

お子さんのやる気のでる接し方



ここではまず、お子さんの立場ではなく、ご自身の立場で、考えてみてください。もし、今あなたが、何かあること（ 資格試験を受ける・ある会の幹事を任せられている・PTAの保護者のとりまとめを頼まれている・・・など ）に取り組んでいるとしましょう。それも、あまり気持ちのがのってこない状況だとします。

そのとき、どのような声を掛けてもらえば、やる気を出して積極的にやっていけるでしょうか？

「もっと一生懸命やってよ」と言われたら、どうでしょう？

「ココとココが駄目なので、もっとしっかりやってください。」と、あれこれ指摘されたら、どうでしょう？

「熱心にやってくれてないわね。」などと咎められたら、どうでしょう？

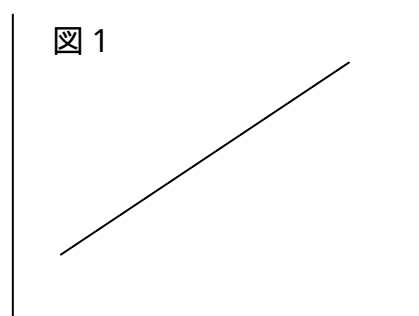
「よくがんばってくれてありがとう。次は、もう少し手直しすればいいところを、一緒に考えましょう。それからもっといいものに仕上げましょう。応援するからがんばって。」と、声を掛けられたら、どうでしょう？

そうなんです。子供も大人とまったく同じなのです。子供も大人と同じような感情を抱くのです。

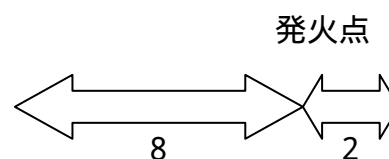
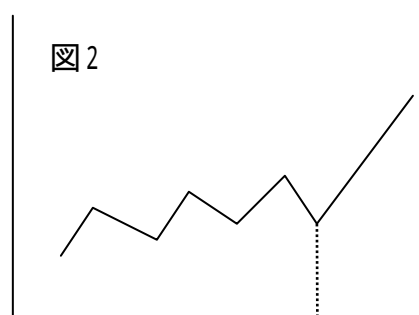
大切なことは、やる気にさせるには、まず、よくても悪くても認めてあげることから始まります。そして、次の課題をともに考え、目標を見つけて、励ましてあげることです。

成績が少し下がったからといって叱る方がおられますが、はっきり言って叱った程度で成績は伸びるものではありません。このようなときにこそ、認め、次の目標を見つけて励ますことが大切です。それから、成績というのは、上がったたり下がったりするものだということも、理解していただきたいと思います。

多くの方が、図1のように成績が上がってゆくとおもうているようですが、実際にこのような成績の伸びがみられることは、まれです。どんなによく伸びたお子さんでも、最初のうちは図2のように、上がったたり下がったりの時期が続き、やがて「発火点」を迎えて、グンと伸びます。



ご存知の方もいるかと思いますが、パレートという経済学者が提唱した「8：2の法則」というものがあります。成果の8割は、2割の時間や部門から作り出されるというものです。これは、様々な経済活動に当てはまるらしいですが、成績の伸びにも当てはまるようなのです。



適切な方法で学習していたとしても、全体の8割の期間は上がったたり下がったりが続きます。

でも、しっかりコツコツ努力を積み重ねていくと、必ず発火点を迎えて急に伸び出すものです。簡単にいえば、前の8割の時間にあらわれる成果は2割でも、あとの2割の時間に、残り8割の成果があらわれるということです。

そして、8と2を足した10の周期は、数日単位のものから、数年単位のものまであります。定期試験へ向けては、塾での定期試験対策が始まるころに「発火点」がくるように、受験生においては、入試の3ヶ月前には「発火点」を迎えられるように、私たち塾のスタッフはがんばっております。

私の塾でもほとんどの生徒が、パレートの法則に合った伸び方をしていました。当初、志望校としてはちょっと無理があるかなと思っていた生徒でも、ある時期から、「コレはいけ

るぞ」というのが、私には直感で感じられるようになり、そのとおりに見事に合格してゆくのです。



学習がはかどる家庭環境とは？



私は、昔から、ちょっと意外なことを言うのが好きで、懇談などをしていても、塾の先生らしくないことを言ってみたり、常識とされていることと反対のことを言ったり、結構してきました。ただし、単に奇をてらったことを言っているだけなら、信頼を失いますから、そこはちゃんと自分の経験をもとに考えて、話をしています。

懇談などでよく、「リビングで勉強すること」を認めてあげて欲しい、という話をしてきました。リビングなんてしゃれたものがなければ、ちゃぶ台やこたつでも良いのです。私自身はちゃぶ台やこたつでした。そして、今はさらに加勢を得て「リビングで勉強させよ！」に、変わりつつあります。

何とも変なことを言うようですが、これにはちゃんとした理由があります。子供部屋にあるものを考えてみてください。眠るためのものがあり、遊び道具があり、趣味のものがあり、もしかするとTVやゲームや携帯電話もありますか？ 要するに様々なものがあります。

大人で言えば、自分の職場に遊び道具や趣味のものが大量にあって、TVは見放題、プライベートな電話も掛かってくる、ちょっと気晴らしに横になることもできる、そんな状態ですが、果たして仕事が上手くゆくでしょうか？

リビングやダイニングのテーブルで学習するためには、必要な物を持ってこなければなりません。そして、それが良いのです。「学習を邪魔する物は、持って来ていない」ということが重要です。もちろんある程度のスペースがないと駄目ですが、子供部屋の机の上と、リビングのテーブルの上を比べてみて、リビングのテーブルの方が散らかっているお家は、滅多にないと思われます。

学習に関する、それもそのとき必要なものだけがあるので、いろんな誘惑を断ち切って、それに専念できるのです。もちろん、横で誰かがTVを観ていて、その内容が気になることもあるでしょうが、それでも意外にできるものです。

先ほど、「加勢を得て」と書きましたが、これを実証された方がおられるのです。エコスコパーレーションという慶應大学発のベンチャー企業があります。この会社は、慶應大学湘南藤沢キャンパスにある生活環境研究機関「ESL」（エコ・スマート・ライフ）の研究成果をもとに、次世代の家創りを提案している会社ですが、その四十万（しじま）社長さんがその方です。

四十万さんは、麻布・開成・武蔵といった有名私立中学に合格した子供（つまり、よう勉強する子供ってことです）を持つ家庭を、実際に200軒以上も訪問してデータを集められたのですが、その数年に及ぶ徹底したフィールド調査活動を通じてわかったのは、「多くの子供たちが、親から与えられた子供部屋では勉強をしていない」という事実でした。

そうなんです、先ほどは私もいろいろ理屈をこねましたが、もっとシンプルに言えば、「子供は勉強部屋に押し込まれて勉強するのが嫌い」なのです。それは、本能的に次のようなことがわかっているからかもしれません。

脳科学者の澤口俊之氏は「子供の脳の発達、特に高度な人間的な能力を担う前頭連合野の形成には、コミュニケーションが豊かにとれる環境に置くことが重要であり、その観点からすると『子供部屋』に子供を閉じこめるのではなく、もっと開放的なコミュニケーション空間の中で育てるべきだ」と主張されています。最近の研究では、人間の脳の中でもっとも高度な機能を担っているのは、前頭連合野であることがわかっています。そこを育てることが一番重要なのです。前頭連合野とは、言語的知性、論理数学的知性、絵画的知性、音楽的知性など、人間のさまざまな基本的な知性を統合するメタレベルの知性としての機能をもつ部位です。

私が自分の塾を作ったときに、個別指導塾にありがちな、小さな個室が並ぶ仕切りだらけのレイアウトではなく、広びろとした開放的な空間にしたのは、このことがあったからです。

とはいえ、別にリビングでの学習をすすめているわけではありません。お子さんは、家中の一番やりやすい場所で、学習すれば良いのです。それを、「ちゃんと自分の部屋があるでしょ！そこで勉強しなさい！」って、子供部屋に追いやってしまうと、かわいそうです。



さいごに

私は現在40歳。子どもが二人います。上は小学1年、下は幼稚園の年少です。塾に通う子どもたちを、我が子のように思い、接してきたせいか、自分の子どもができたのが遅かったのです。

今は、正直言ってどうしようもない親バカ父さんです（笑）。そんな私が、皆さんと同じ、子どもを持つ親の視点から、今回の小冊子をまとめさせていただきました。

この小冊子をお読みになって、役に立つことが少しでもございましたら、ぜひお知り合いの方にお譲りください。みなさんのお役に立てることを心から祈っております。ありがとうございました。



英駿（えいしゅん）個別進学セミナー
内閣総理大臣許可 社団法人日本青少年育成協会
認定教育コーチ 塾長 加藤寛



【ご相談・お問合せ・資料請求先】

〒520-0855 滋賀県大津市栄町 1-14

フリーダイヤル 0120-73-4119 (月～土 日祝休 午前10時～午後10時)

土曜日までにご連絡をいただければ日祝日もご相談を承ります。

24時間FAX 077-533-4119

Email hc-kato@eva.hi-ho.ne.jp

塾長の公式ブログ「小中高生の学力向上プロジェクト」

「大津 えいしゅん」で検索可能！<http://eishun-4119.at.webry.info/>